

GAP部門

農産局長賞

取組の紹介

有限会社山波農場

所在地	新潟県柏崎市大字水上467
認証	JGAP
応募区分	個別経営の部
面積	119.8ha
構成員	12名
栽培品目	水稻

GAPに取り組んだきっかけ

- 従来のトップダウン体制の組織運営ではなく、組織で責任を持つボトムアップ型の体制にするため、また、農業が他産業と肩を並べるためには当たり前前のことを当たり前にする会社の仕組みが必要と考えた。そんな中JGAP認証制度を知り、JGAPを活用した人材育成・組織改革を開始。H23にJGAP認証を取得し、以降継続して認証を受けている。

生産工程管理の改善に向けた取組

- 企業として最も重要と考える労働安全について、リスクアセスメントを使い、社員自身が主体的に労働安全(労働災害リスク低減)を考え、業務手法に組み込み、実行。農業管理や労働安全について掲示物での注意喚起を行う。

生産効率性の向上に向けた取組とその効果

- 作業別責任者制度を考案・実行することにより、各作業工程に社員が責任を持ち、自ら効率化を考えて計画を立てるようになる。10a当たりの水稻作業時間は18.9時間(H22)→15.3時間(R6)に19%短縮。
- 地域の農地を守るために創業した山波農場では、その設立の思いや設立後の取組に地域から多くの信頼を得た結果、現在は地域の7割の農地の集積・集約化を実現。
- ほ場整備の結果、一区画あたりの平均面積が14a(H21)→27a(R6)の1.9倍となり、作業効率を改善。

経営の改善に向けた取組とその効果

- JGAPを商品の販売などの対外的なツールではなく、会社の改善・体制強化のツールとして利用しているが、結果的に商品の品質向上にも寄与。
- 改善の結果、運営体制が整備された会社は品質の良い商品を生産できるとみなされ、香港への輸出が8t(R3)→70t(R6)となり年々増加。

地域への波及効果

- 新規就農者や若手普及指導員の研修を受け入れることで地域の若手農業者の人材育成に貢献。農業体験イベントの受け入れや年間50回以上の視察、講演に対応。



労働災害リスク低減を組み込んだ作業手順書



農薬の適正使用や作業安全に向けた掲示



山波農場が考案した作業別責任者制度



農業体験受け入れの様子